

物流効率化シンポジウムの開催概要

平成30年10月30日
九州運輸局物流効率化政策推進本部

■物流効率化シンポジウム開催の背景及び趣旨

物流は、我が国の産業競争力の強化や、豊かな国民生活を実現し、地方創生を支える重要なインフラであり、企業活動や国民生活において必要不可欠なものとなっています。

一方で、貨物の小口化・多頻度化が進むなど、物流産業を取り巻く状況は大きく変化しており、また、少子高齢化に伴う労働力人口の減少によって、中長期的には人材の確保が困難になっていく可能性が指摘されています。

このような状況のもと、我が国の物流機能を途絶えさせることなく維持していくためには、物流業務の生産性を向上させ、限られた労働力で流通業務を行うことを可能とすることが不可欠となっていますが、個々の物流事業者の取組みだけでは限界があることから、物流事業者同士が連携することはもとより、荷主や地方公共団体等の多様な関係者と連携し、各々が適切な役割を担い、流通業務省力化の取組みを促進していくことが求められています。

こうした背景を受け、平成28年10月に「改正物流総合効率化法」が施行され、輸送の合理化を支援する仕組みが構築されたところであり、これらを積極的に活用し流通業務の総合化及び効率化を図ることにより、省力化の進展のみならず労働環境が改善されることで人材の確保の面においても大きな効果が期待できることとなっています。

また、平成29年7月には、これからの物流に対する新たなニーズに応え、我が国の経済成長と国民生活を持続的に支える「強い物流」の実現に向け、その施策の方向性と取組みを示した「総合物流施策大綱(2017年度～2020年度)」が閣議決定されるなど、物流の効率化・省力化に向けた気運が高まっています。

九州運輸局は、この機会を捉え、物流全体の効率性・生産性の向上に資することを目的として、平成30年3月、九州で初めて物流効率化シンポジウムを開催し、これまで物流事業者の立場から論ずることの多かった「物流の効率化」等について、生産者や荷主、消費者の立場からの意見や考え方も踏まえ、現状の課題を共有しました。

今年度は、トラックドライバーの労働時間短縮や休息時間の確保等、労働環境の改善に大きな効果が期待され、モーダルシフトの担い手として注目を浴びつつある「RORO 船」にフォーカスし、その利用促進に力を入れている大分県との共催でシンポジウムを開催、RORO 船を利用することによるメリットや活用方法、今後の展望などについて、九州の物流事業者・荷主をはじめとした関係者に広く情報発信します。